

令和元年6月24日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02936

研究課題名(和文)創造-発信型フランス語学習システムの開発

研究課題名(英文)Development of the French learning system for the creation and communication skill

研究代表者

惟村 宣明(KOREMURA, Nobuaki)

東海大学・国際教育センター・教授

研究者番号：90195884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果をもとに、標題の学習システムの開発を行い、教材を作成した。この学習システムによって、学習者はフランス語で発信する際に感じる緊張を軽減し、より創造的にフランス語に取り組むことができるようになる。本学習システムの特徴は次の通りである。1)グループによる自律的協働的学習を前提としている。2)教材として、独自の世界観・ストーリーを持ち、学習者をその中に引き込むようなロールプレイングゲームを使用している。3)このロールプレイングゲームは、学習者が筋肉や声の動きを通して体感するものであり、学習者にスリルと達成感を与え、自分のレベルが上がった事を自覚させる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第二外国語としてのフランス語履修者が、初級(CEFR A1レベル)から自立した言語使用者(CEFR B2レベル)に至る、一貫した教材と教授法・学習法を確立する試みであり、日本でも類を見ない。さらに「書く」「やりとりする」アウトプット型の学習法を求めることも特徴である。その目標とするところは、グローバル社会において、フランス語圏に発信することができる、様々な技術を持った人材の育成である。開発する教材は、単に文法を教えるものではなく、フランス、ヨーロッパの政治・社会システムや文化などの情報を多く提供するものにする。日本のフランス語学習者の視野は、よりグローバルなものとなるだろう。

研究成果の概要(英文)：Based on the results of our studies, we developed this French learning system and created the teaching materials. By this system, learners can decrease their tensions when they speak French, and become more creative with this language. Its features are as follows. 1)It supposes the autonomous and cooperative study in groups. 2)As teaching materials, we use role-playing games that have their own stories and visions of the world and make learners engage in them. 3)These games are something that learners can experience through muscular and vocal movements. They will give them the thrill and satisfaction of achievement, and motivate them to increase their levels.

研究分野：フランス語教育学

キーワード：RPG 創造 発信 フランス語

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年外国語教育において、アクティブラーニングによる双方向的授業、グループによる協働学習、自律型学習等について多くの研究がなされている。我々は、第二外国語としてのフランス語教育の現場で、これらの研究に基づく授業方法を実践し、以下のような問題点を発見した。

第二外国語としてのフランス語学習者の多くは明確な学習動機を持たず、受動的傾向が強い。

日本には、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)A1 レベルから、自立した言語使用者(CEFR B1, B2 レベル)へと導く一貫した教材がない。

「書く」「やりとりする」など、アウトプットするための教授法が確立されていない。

そこで我々は、学習者の意識改革を促し、適切な教材とアウトプットのための教授法・学習法を体系化した、一貫した「創造-発信型学習システム」を研究、開発することにした。

### 2. 研究の目的

(1) フランス語学習者が自ら考え、創造し、積極的に情報を発信する力を養成するための、「創造-発信型学習システム」の基盤となる教材(CEFR A1, A2 レベル)を開発する。

(2) この教材によって、「書く」「やりとりする」ための、アウトプット型の学習法を提示し、学習者のフランス語学習に対する意識を改革する。

(3) グローバル社会において、フランス語で発信できる、様々な技術を持った多くの人材を育成するためのフランス語教育システムを確立する。すなわち、大学で第二外国語としてフランス語を学ぶ者が、4年間で自立したフランス語使用者となり、各自の専門分野で討論、討議できるレベル(ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR B2)に到達する一貫したシステムを作る。

### 3. 研究の方法

(1) アンケート調査と実験授業における学習者の観察、インタビューなどを通して学習者の学習姿勢や心理を理解し、第二言語不安を解消する方法を探る

(2) フランスおよび日本で出版されている教材を分析し、内外の教育機関で実施されている最新のフランス語教育法を研究して、日本における第二外国語としてのフランス語学習者に最適な方法を探る。

(3) 教材研究と学習者研究に基づき、「書く」「やり取りする」ための、創造-発信の力を重視したフランス語学習システムを確立する。

(4) 創造-発信型学習システムのための教材を作成し、教育現場で実践し、学習効果などを研究して、最終的に基礎段階(A1, A2 レベル)の教材を完成させる。

### 4. 研究成果

(1) 創造-発信型フランス語学習システムの研究に基づく、フランス語初級教材を作成した。この教材の特色は以下の通りである。

グループによる自律的協働的学習を前提としている。協働作業によって培われる友情は学習動機を高める。

ロールプレイングゲーム(RPG)に基づく教材である。教材で用いられる RPG は、学習者を熱中させ、その世界観やストーリーに引き込むことができるようなものにした。学習者は教材と一体化し、効率的に語彙や表現を体得することができる。

教材の練習問題はゲーム性の強いものにした。ゲームは学習者にスリルと達成感を与え、自分のレベルが上がった事を自覚させ、一種の快楽を与え、先に進む気力を奮い立たせるように作られている。

RPG はグループで演じられるべきものとして作成されている。学習者は「見る」「聞く」「やり取りする」「書く」という、語学の4つの技能を、ストーリーを演じることによって体感し、表現の工夫を通して創造し発信する喜びを知るのである。

(2) 創造-発信型フランス語学習システムに基づく学習体系を構築した。2015年に、第二言語不安に関して、東海大学のフランス語履修者106名を対象にアンケートを行ったところ、75名(71%)の学生が、フランス語ネイティブと話す時、緊張を感じると答えた。この結果をふまえて、東海大学でフランス語履修者の学習ぶりを観察し、インタビューを行い、我々は、第二言語不安を解消するための以下の学習法を考案した。

フランス語ネイティブと話す時に学習者が感じる緊張感は、予測不可能なやりとりに対する不安から来るものである。この不安を解消するために、我々はある種のストレスを学習者に与える。ただしこのストレスは、学習者の能力を高めるために十分計算されたものなければならない。学習者が修得したばかりの表現を使って応答する場合、返答するまでの時間を制限してストレスを加え、無意識かつ滑らかに言えるようになるまで訓練する。さらに教員は、学習者一人一人が身に付けているフランス語能力を熟知し、まず彼らの能力内で答えることを求め、

次に彼らの能力をやや超える新しい局面に誘うようなストレスを与える。こうして、自分の能力の範囲内で即座に答える習慣を身に付けた学習者は、予測不可能な応答に対応できるようになり、第二言語不安から来る緊張から徐々に解放されるのである。

学習は受動的であってはならない。学習者はグループによる協働学習によって自ら発見し、教員と双方向的にやりとりし、ロールプレイングゲームで役割を演じなければいけない。語学学習は体得すべきもので、授業中、学習者は聞き手になることはなく、常に能動的な参加意識を保ち続けなければいけない。仲間意識が育まれ、教室内の緊張感は解消される。

学習者は、修得した言葉を取り入れ自己表現を豊かにし、他者とのコミュニケーションを通して成長し、まとまった内容の自分の意見を言い、論じることができるよう、段階を経て導かれる。学習者はこの時、挑戦的、創造的であることにより、緊張と不安に打ち勝つのである。

東海大学では、授業における教員と学習者の双方向的で協働的な人間関係が、教室外へと発展した。学習者達は、フランス語を通して自らの成長を認識し、フランス語による表現力を高めるために仲間と集うようになった。我々はこれを奨励し、彼らの人間関係が深まるよう見守った。第二外国語履修者という特質から、様々な分野の学生が集まり、積極的で個性的なフランス語学習者集団が形成され、他の学習者をリードするようになった。理想的な教育環境が出来上り、我々は以下のような、一連の学習体系を構築するに至った。

初級(フランス語学習1年目)の段階では、フランス語で簡単な意思疎通をする楽しさを実感させ、フランス語圏およびフランス文化への関心を高めるようにする。教室内の協働的活動から、仲間意識が強くなり、学習を継続する意志が高まる。教員は、学習者が獲得した表現で何ができるのか明示し、また、上級のグループと交流させ、初修者に手本とすべき目標を示す。

中級(フランス語学習2年目)まで進んだ学生は、残りの学生生活の間フランス語とかがわり続ける傾向が強い。彼らには、フランス語圏で、自力で生活できるような、実践的表現力を身に付けさせる。上級に向かう基礎力を身に付けさせ、学内で暗唱や作文大会などを開催し、創造的に表現することの喜びを体験させる。

上級(フランス語学習3年目以上)では、まとまった内容のフランス語を書き、やり取りする訓練を行う。学外のフランス語に関するイベントや大会に参加できる力を養い、積極的に自分の力を試そうとする機運を高める。

2018年に東海大学の一般学生を対象に実施したアンケートによると、外国語(英語)を話すのが苦手と答えた学生は、298名中183名(61%)であり、外国語を話す時緊張すると答えた学生は、回答者255名中187名(73%)であった。我々の教育環境下では、学習が進むにつれ、フランス語を話す時の緊張感が薄まり、上級者は自分の能力内であるなら緊張は感じないと答えるようになった。

(3) 創造-発進型フランス語学習システムによる実践的な活動として、映画製作を行った。これは、教員と学習者の双方向的なやり取りから生まれたものである。学習者がアイデアを出し、教員が助言する中で、YouTubeに作品をアップするまで話が発展していった。『東海ヌーベルバーグ』というタイトルで、2016年から2018年まで4話作成され、世界中で計3万を超える視聴回数を獲得し、フランスのテレビ局が取材に来るほど注目された。この企画には、全体として50名以上の学生と5名の教員が関わった。参加者のフランス語力が大幅に上がっただけでなく、適材適所で協力し合い、一つの仕事を成し遂げた経験は、参加者の絆を深め、人間教育の意味でも大きな成果を上げた。「創造-発信」を標榜する我々の研究の実践例として、この試みは意義深いものとなった。

(4) 創造-発進型フランス語学習の総仕上げとして、自らを試すために、東海大学の学習者達は全国規模のフランス語弁論大会に参加し、以下のような成績を収めた。

2019年、「第10回新潟フランス語スピーチコンテスト」に3名が出場し、1名が中級暗唱の部で優勝、2名がフリースピーチの部で入賞した。

2018年、「第11回日仏会館フランス語コンクール」に4名が応募し、3名が決勝に進み、1名が入賞した。

2018年、「第50回全日本学生フランス語弁論大会」に2名が出場し1名が決勝に進出した。

2017年、「第9回日仏会館フランス語コンクール」に3名が応募し、2名が決勝に進出した。1名が第1部門(上級)で優勝、1名が第2部門(中級)で優勝した。

2017年、「第49回全日本学生フランス語弁論大会」に2名が出場し1名が準優勝した。

2016年、「第8回日仏会館フランス語コンクール」に6名が応募し、3名が決勝に進出した。1名が第2部門(中級)で優勝、2名が入賞した。

2016年、「第48回全日本学生フランス語弁論大会」に2名が出場し優勝、準優勝を遂げた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

惟村宣明、フランス語学習、入門から初級・中級への誘い、RENCONTRES、査読無、32-2 巻、2018、6-10

惟村宣明、フランス語特定プログラムの成果と今後の展望、東海大学国際教育センター所報、査読有、37 巻、2017、111-115

惟村宣明、実用技能フランス語検定試験受験によるフランス語教育の活性化、東海大学国際教育センター所報、査読有、36 巻、2016、141-150

深井陽介、グループで学ぶことのメリット-多声性と多様性-、東海大学国際教育センター所報、査読有、36 巻、2016、171-178

Yosuke FUKAI, Apprendre le français à travers la création de vidéos sur YouTube, Mise en place de nouvelles approches didactiques et formations intégrant le numérique, Dossier Acta Litt&Arts : [La traduction du savoir et ses méthodes](#), 2019.

(<http://ouvroir-litt-arts.univ-grenoble-alpes.fr/revues/actalittarts/501-apprendre-le-francais-a-travers-la-creation-de-vidéos-sur-youtube>)

〔学会発表〕(計 11 件)

深井陽介、YouTube における映画製作の可能性、関西フランス語教授法研究会、2019

惟村宣明、深井陽介、RPG 型教科書の可能性、関西フランス語教育研究会例会、2018

深井陽介、外国語教育における映画製作の可能性、英語映像メディア教育学会、2018

深井陽介、革新的教育学と短編映画作成、知の翻訳とその方法、国際共同シンポジウム、2018

惟村宣明、東海大学国際教育センターフランス語教室の取り組み、関西フランス語教授法研究会、2017

惟村宣明、フランス語学習、入門から初級・中級への誘い、関西フランス語教授法研究会、2017

深井陽介、ユーチューブを活用したビデオ作品作成を通してフランス語を学ぶ、国際フランス語教授連合・アジア太平洋地区大会、2017

惟村宣明、東海大学における「特定プログラム」制度、日本外国語教育推進機構、2017

深井陽介、グループで学ぶ-6 つの力を獲得するために-、長崎大学平成 28 年度教養教育 FD ワークショップ(招待講演)、2017

深井陽介、グループで学ぶことのメリット-多声性と多様性-、日本フランス語教育学会、2016

惟村宣明、東海大学における特定プログラム制度、日本フランス語教育学会、2016

〔図書〕(計 1 件)

惟村宣明、駿河台出版、ラケット、2017、89

〔その他〕

映画製作『東海ヌーベルバーグ』第 1 話~第 4 話

第 1 話 <https://www.youtube.com/watch?v=he8VBvjBir8>

第 2 話 <https://www.youtube.com/watch?v=FEom98KvgRY>

第 3 話 <https://www.youtube.com/watch?v=-uV6c0Tg9wI>

第 4 話 <https://www.youtube.com/watch?v=S5UCWXwhE4k>

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：深井陽介

ローマ字氏名：FUKAI, yosuke

所属研究機関名：東北大学

部局名：高度教養教育・学生支援機構

職名：准教授

研究者番号(8桁): 60623410

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。